TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　714語

How the Quail became a Snipe

ウズラがシギになったわけ

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：April6090

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　さびしいフクロウは、ウズラの子どもを1羽ほしがりますがことわられます。そこで暗い夜、ウズラの巣にしのびよって……。



"It is lonely living in this great tree far away from the other birds," said the owl to herself. "I will get some one to come and live with me. The quail has many children, and I will ask her for one of them."

The owl went to the quail and said, "Will you let me have one of your children to come and live with me?"

"Live with you? No," answered the quail. "I would as soon let my child live with the serpent. You are hidden in the tree all day long, and when it is dark, you come down like a thief and catch little animals that are fast asleep in their nests. You shall never have one of my children."

"I will have one," thought the owl.

She waited till the night had come. It was dark and gloomy, for the moon was not to be seen, and not a star twinkled in the sky. Not a leaf stirred, and not a ripple was on the pond. The owl crept up to the quail's home as softly as she could. The young birds were chattering together, and she listened to their talk.

"My mother is gone a long time," said one. "It is lonely, and I am afraid."

"What is there to be afraid of?" asked another. "You are a little coward. Shut your eyes and go to sleep. See me! I am not afraid, if it is dark and gloomy. Oh, oh!" cried the boaster, for the owl had seized him and was carrying him away from home and his little brothers.

When the mother quail came home, she asked, "Where is your brother?" The little quails did not know. All they could say was that something had seized him in the darkness and taken him away.

"It crept up to the nest in the dark," said one.

"And oh, mother, never, never go away from us again!" cried another. "Do not leave us at home all alone."

"But, my dear little ones," the mother said, "how could you have any food if I never went away from our home?"

The mother quail was very sad, and she would have been still more sorrowful if she had known what was happening to her little son far away in the owl's nest. The cruel owl had pulled and pulled on the quail's bill and legs, till they were so long that his mother would not have known him.

One night the mole came to the quail and said, "Your little son is in the owl's nest."

"How do you know?" asked the quail.

"I cannot see very well," answered the mole, "but I heard him call, and I know that he is there."

"How shall I get him away from the owl?" the quail asked the mole.

"The owl crept up to your home in the dark," said the mole, "but you must go to her nest at sunrise when the light shines in her eyes and she cannot see you."

At sunrise the quail crept up to the owl's nest and carried away her dear little son to his old home. As the light grew brighter, she saw what had happened to him. His bill and his legs were so long that he did not look like her son.

"He is not like our brother," said the other little quails.

"That is because the cruel owl that carried him away has pulled his bill and his legs," answered the mother sorrowfully. "You must be very good to him."

But the other little quails were not good to him. They laughed at him, and the quail with the long bill and legs was never again merry and glad with them. Before long he ran away and hid among the great reeds that stand in the water and on the shores of the pond.

"I will not be called quail," he said to himself, "for quails never have long bills and legs. I will have a new name, and it shall be snipe. I like the sound of that name."

So it was that the bird whose name was once quail came to be called snipe. His children live among the reeds of the pond, and they, too, are called snipes.

「ほかの鳥たちから遠くはなれて、この大きな木にひとりですむのはさびしいわ」とフクロウはひとりごとを言いました。「だれかにいっしょにすんでもらおう。ウズラには子どもがたくさんいるから、1羽わけてもらおう。」

フクロウはウズラのところへ行って言いました。「あなたの子どもを1羽、わたしのところへすみに来させてくれない？」

「あなたといっしょにすむですって？おことわりよ」とウズラは答えました。「それなら、うちの子をヘビといっしょにすまわせるほうがましだわ。あなたは1日じゅう木の中にかくれていて、暗くなると、どろぼうみたいにおりてきて、巣でぐっすりねむっている小さな動物をつかまえるじゃないの。うちの子は1羽だってあげないわ。」

「ぜったいに1羽手に入れてやる」とフクロウは思いました。

フクロウは夜になるのを待ちました。月も見えず、空には星1つまたたいていない、暗くさびしい夜でした。木の葉1まい動かず、池にはさざなみ1つありませんでした。フクロウはできるだけそっと、ウズラの家にしのびよりました。ウズラの子どもたちがおしゃべりをしていたので、フクロウはその話に耳をすましました。

「お母さん、ずいぶん長く出かけているね」と1羽が言いました。「さびしいし、こわいよ。」

「何がこわいのさ？」とべつの1羽がききました。「おまえはおくびょうだなあ。目をつぶってねむっちゃえよ。ぼくを見てごらん！暗くてさびしくたって、ぼくはこわくないぞ。わあ、わあ！」といばっていた子はさけびました。フクロウがその子をつかまえて、家と小さな兄弟たちのところからつれさってしまったのです。

お母さんウズラが帰ってきて、「お兄ちゃんはどこ？」とききました。小さなウズラたちは知りませんでした。ただ、暗やみで何かがお兄ちゃんをつかまえて、つれていってしまったとしか言えませんでした。

「暗やみの中で、巣にしのびよってきたんだよ」と1羽が言いました。

「ああ、お母さん、もう二度とどこにも行かないで！」とべつの1羽がさけびました。「ぼくたちだけでおるすばんさせないで。」

「でも、かわいい子どもたち」とお母さんは言いました。「もしわたしが一度も家から出かけなかったら、どうやって食べものを手に入れるの？」

お母さんウズラはとてもかなしみました。でも、遠いフクロウの巣で小さなむすこに何がおこっているかを知ったら、もっともっとかなしんだことでしょう。いじわるなフクロウが、ウズラの子のくちばしと足をひっぱってひっぱって、お母さんが見てもわからないくらい長くしてしまっていたのです。

ある夜、モグラがウズラのところへやってきて言いました。「あなたのむすこは、フクロウの巣にいますよ。」

「どうしてわかるの？」とウズラはききました。

「わたしは目があまりよく見えません」とモグラは答えました。「でも、あの子がよぶ声を聞いたので、そこにいるとわかるのです。」

「どうしたらフクロウからあの子をとりもどせるかしら？」とウズラはモグラにききました。

「フクロウは暗やみの中であなたの家にしのびよりました」とモグラは言いました。「だからあなたは、日の出のころにフクロウの巣へ行きなさい。そのころは光がフクロウの目に入って、あなたのことが見えないのです。」

日の出のころ、ウズラはフクロウの巣にしのびより、かわいい小さなむすこをもとの家へつれて帰りました。あたりがだんだん明るくなると、お母さんはむすこに何がおこったのかがわかりました。くちばしと足がとても長くなっていて、自分のむすこには見えなかったのです。

「ぼくたちのお兄ちゃんみたいじゃないよ」とほかの小さなウズラたちは言いました。

「それはね、この子をつれさったいじわるなフクロウが、くちばしと足をひっぱったからなのよ」とお母さんはかなしそうに答えました。「この子にうんとやさしくしてあげてね。」

けれども、ほかの小さなウズラたちはやさしくしてあげませんでした。みんながその子をわらったので、くちばしと足の長いウズラは、もう二度とみんなといっしょに楽しくすごすことはありませんでした。まもなくその子は家を出て、池の水の中や岸に生えている大きなアシのあいだにかくれました。

「もうウズラとはよばれたくない」とその子はひとりごとを言いました。「ウズラのくちばしや足は長くないもの。新しい名前にしよう。シギという名前がいい。ひびきがすきだ。」

こうして、むかしウズラという名前だった鳥は、シギとよばれるようになりました。その子どもたちは池のアシのあいだにすんでいて、やっぱりシギとよばれているのです。

たんご と クイズ　ウズラがシギになったわけ

owl フクロウ	quail ウズラ	star 星
pond 池	bill くちばし	legs 足
mole モグラ	snipe シギ	

Q1 フクロウにつれさられたのは、どんな子？

① こわくないといばっていた子　② ねむっていた子　③ いちばん小さな子

Q2 むすこがフクロウの巣にいるとお母さんに教えたのはだれ？

① ヘビ　② モグラ　③ シカ

Q3 もどってきた子は、自分に何という名前をつけた？

① フクロウ　② ウズラ　③ シギ

こたえ

Q1 ①　「ぼくはこわくないぞ」といばっていた子が、フクロウにつかまえられてつれさられてしまいました。

Q2 ②　目はあまり見えないけれど、耳のよいモグラが、子どもの声を聞いてお母さんに教えてくれました。

Q3 ③　くちばしと足が長くなったその子は、「ウズラ」ではなく「シギ」という新しい名前にしました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：April6090（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。